

11月2日のレッスン

エレミヤの救出

キー・ヴァース王はエチオピアのエベデ=メレクに命じて言った、"ここから三十人を連れて来て、預言者エレミヤが死なないうちに、地下牢から救い出なさい"。

エレミヤ38:10

選択聖句

エレミヤ38:1-28

人類の歴史を通して神のしもべの中で、預言者エレミヤは特別な存在であった。彼がまだ若いうちに預言者として召された驚くべき性質を考えてみよう。エレミヤはその時のことをこう記している：わたしは胎内であなたを形造る前からあなたを知っていた。そこで私は言った：ああ、主なる神よ！見よ、わたしは語ることができない。しかし、主は私に言われた：わたしがあなたがたを遣わすすべての者のもとに行き、わたし（ ）が命じることは何でも、あ

なたがたは語らなければならない。わたしがあなたとともにいて、あなたを救い出すからである。"と主は言われる。エレミヤ1:4-8

若きエレミヤが人生を変えるほどの衝撃を受けたことは想像に難くない。結局のところ、神は彼に直接語られたのだ！さらに、自分が胎内に生まれる前から神に知られていたことが明かされたのだ。さらに、エレミヤが生まれる前から神によって聖別され、すべての国の預言者となるように定められていたことにエレミヤは驚いたのだろう。おそらくエレミヤはこのメッセージによろめいただろう。神の御心はどのようにして成し遂げられるのだろうか、いや、成し遂げることができるのだろうかと思ったかもしれない。しかし、神がエレミヤに力を与えたとき、すべての疑問は取り除かれたようだ。主は御手を差し伸べて、わたしの口に触れられた：見よ、わたしはわたしの言葉をあなたの口に置いた。見よ、わたしはわたしの言葉をあなたの口に置いた。わたしは今日、あなたを国々の上に、王国の上に置いた。(9、10節)。これらの特別な約束によって力を与えられたエレミヤは、イスラエル、ユダ、そして諸国民に対して、恐れずに忠実に神の言葉を宣言する務めを始めた。

ユダ最後の王ゼデキヤの時代、エレミヤの預言はユダの指導者たちによって拒絶された。預言者は大胆にも、ゼデキヤとその統治者たちに、神が彼らの治世の終わりを。エルサレムは滅ぼされる。彼らが生き残る唯一のチャンスは、バビロンのエルサレム侵略と征服が、彼らのかたくなな不従順に対する神の罰であることを受け入れることだった。神の御心に従えば、彼らの命は助かる。それどころか、ゼデキヤの統治者たちは、エレミヤを廃墟と化した貯水槽に幽閉するよう主張した。彼らは、エレミヤは民の意志を弱めている、反逆行為だと言った。エレミヤが入れられた貯水槽は、泥でいっぱいだった（エレミヤ38:1-6）。私たちは、エレミヤが経験した信仰の内的葛藤を想像することができる。彼はそこで死ぬのだろうか？神は彼を見捨てたのだろうか？

おそらくエレミヤは詩篇40篇を思い起こしたのだろう。「主はわたしに立ち帰られ、わたしの叫びを聞かれた。主はまた、わたしを恐ろしい穴から、泥の土から引き上げ、わたしの足を岩の上に置き、わたしの歩みを堅くされた。詩篇40:1,2

私たちは、神がご自分の民を「泥土」のような状況から救い出し続けてくださると信じている。エレミヤの忠実と信頼の模範は、主の民を鼓舞し続けてい

る。「神は私たちの避け所であり、力である。それゆえ、私たちは恐れない。詩篇46:1,2